

視 察 調 査 報 告 書
＜子どもの未来応援特別委員会＞

令和4年第7回沖縄県議会（11月定例会）

令和4年12月20日（火曜日）

沖 縄 県 議 会

子どもの未来応援特別委員会視察調査報告書

視察調査日時

令和4年12月20日 火曜日

視察調査場所

子どもの居場所 こぼんち（那覇市古波蔵）

視察調査事項

子どもの貧困問題及び教育無償化並びにこれらに関連する諸問題の調査及び対策の樹立について（子どもの居場所の取組について）

視察調査概要

別紙のとおり

参加委員（10人）

委員長	西 銘 純 恵 さん
副委員長	当 山 勝 利 君
委員	新 垣 淑 豊 君
委員	新 垣 新 君
委員	石 原 朝 子 さん
委員	仲 田 弘 毅 君
委員	山 内 末 子 さん
委員	玉 城 武 光 君
委員	喜友名 智 子 さん
委員	上 原 快 佐 君

随行職員（2人）

議会事務局政務調査課主幹	具志堅 勝 也
議会事務局政務調査課主査	下 地 恵 子

別紙（視察調査概要）

1 子どもの居場所の取組について

（1）概要説明

子どもの居場所こぼんち 代表理事 小林香織
那覇市社会福祉協議会 浦崎直己

こぼんちはボランティアベースではあるが、地域に密着した子供の居場所づくりを目指したいというところで事業化を考えていて、ここまでプロモーションが上手にできている場所は県内では片手で数えるぐらいしかない。

当団体は2020年10月に活動を始め、2年が経過したところである。助成金を活用しながら食費に充てたり、子供たちのおもちゃを買ったりという形で活動している。

地域の子供の居場所として継続した運営を目指しており、事業化に向け準備中である。いろいろな方の支援をいただきたいという思いで動画も作成している。

人とのつながり、地域のがんがりが薄くなっており、多世代交流や兄弟以外と会うことや学校以外で友達と遊べる場所自体も減っており、コロナ禍で友達の家で遊ぶこともなかなかできなくなっている状況がある。

学校の先生や親以外の大人に会える場所という点では経済的な貧困だけではなく、文化的、社会的な出会いや体験をどう担保していくかという意味でのコミュニティ型の居場所となっている。

また、必要になったときに気軽にSOSが出せるような環境づくりもしているところである。

内閣府の貧困対策費用では、子供の居場所を支援するものは基本的に5年前とほぼ変わらないか、市町村の負担割合が増えているところがあり、ボランティアベースの居場所を行政としてどこまで支援するのかというところを考える必要があると思う。

那覇の居場所は、55か所あるが、現役世代がやるとなった場合にはやはり事業化を狙うか、月1回の貴重な土日や夜の時間を費やして、少しのペースで行うことになる。本格的に行う場合には、そのための収益や寄附の仕組みが必要になってくる。事業化を目指して取り組んではいるが、子育て世代のお母さんたちが集まれる場所もつくっていきたいと考えている。

（2）主な質疑応答

Q 家賃など運営経費がかかると思われるが、助成金以外の運営費については

どう捻出しているのか。

A 助成金の活用項目が限られているので、法人の設立費や、税理士に係る費用、ボランティアへの謝金など助成金が充てられない経費を寄附金で賄っている。

人件費や家賃に充てられる助成金がほとんどないのが課題となっている。

Q ほかの参考になるようにするためにも事業化を目指しているのか。

A 事業化を目指す目的の一つに、どうにか事業化のロールモデルになりたいということがある。できれば、小学校区に対して3居場所ぐらい欲しい。

Q 補助メニューや仕組みを変えることについては、現場からも声を上げていかなければいけないと思うがどうか。

A 那覇市の居場所に関してはボランティアベースなので、人件費には充てられないという考えのようである。市からの助成金をどう活用するかについては、諦めずに現場から声を上げていかなければいけないと考えている。

Q 子供の居場所とレンタルルームでは利用者に違いがあるか。

A レンタルルームは、ある程度経済的な余裕や情報をキャッチする力がある方が利用している。

対照的に子供の居場所に関しては、子供たちが自分の足でここに来られるという形にしているので、保護者の方が来るのは本当に数名である。

Q 幾つか無料学習塾の話を聞くと、比較的成績の良い子供を対象にしているので、学習に少しつまづきがあるとか、丁寧なケアを必要とするところは、民間の塾では面倒を見切れないという現状があるようだが、状況はどうか。

A 経済的に豊かな家庭は、放課後の時間にお稽古が入っているため、ここには来ないという現状がある。

無料学習塾のほうに関しても、学習に意欲がある子であったり、ちゃんと机に向かうことができる子たちの場所だと思っている。学習に対して苦手意識を持っている子たちも多いので、こぼんちとしてはその子たちをどうフォローするかというところに意識を置いている。

Q ファミリーサポートの家庭支援や困窮世帯の支援と少し重なる部分もあると思うがどうか。

A ファミリーサポート自体はお金がかかったり、母子会に登録しての育児支

援や派遣事業は時間が決まっている。それだけでは足りない部分もあり、ボランティア、子供の居場所などで支えないといけない部分が出てきている。いろいろな制度の整理が大事かと考えている。

以 上